

# 青梅市商・工業振興プラン 構成骨子（案）

令和8（2026）年5月

# 新 青梅市商・工業振興プラン 構成案

- 市長あいさつ
- 目次
- 計画策定の背景、目的、期間、位置づけ
- 商・工業振興のコンセプト
- 10年後のおうめの姿(将来像)

## 第1章:青梅市の商工業を取り巻く現状と課題

### 【現状】

- 人口減少、少子化・高齢化
- 産業構造、事業所の状況
- 地域経済循環構造
- 事業所の経営状況、経営課題、ニーズ(アンケート結果等)
- 産業振興に関する市民や事業者の声(市民アンケート等)

### 【課題】

- 人口減少、高齢化社会への対応
- デジタル化、脱炭素への対応
- 地域産業の稼ぐ力の向上
- 基盤産業の維持
- 消費の流出の抑制

## 第2章:施策(商・工業振興に向けた取組)

- 施策の全体像とロードマップ(体系、短期・中期・長期の目標)
- 商業振興
- 工業振興
- 産業基盤や産業連携体制の構築

※各施策について、課題、目標、KPI、関連事業等を整理

※適宜、参考事例、市民の声、市内の動き等を記載

## 第3章:推進体制

- 役割分担
- 計画管理方法

## 第4章:資料編

# Challenge & Innovation & Adventure

## 創造的かつ大胆な革新に挑戦し、おうめを変えていく

社会が大きく変化するこの先の10年。ただ変化に追従するのではなく、先行的・積極的に取り組んでいかなければ、青梅は取り残される。  
歴史と先進性、自然と都会が共存する、青梅ならではの魅力や可能性を活かしながら、  
創造的かつ大胆な革新に挑戦し、未来の市民が楽しく、豊かに、誇りをもって暮らせるまちを目指す。

### 【これから起こる(起こりそうな)社会の変化】

#### 1. 地域社会の構造的変化

- ・ 少子高齢化がさらに加速し、労働力不足がさらに深刻化
- ・ 少子・超高齢化により、医療・介護需要が急増、消費行動も大きく変化
- ・ 都市部、郊外部で人口や生活環境が二極化

#### 2. 経済と技術の展望

- ・ AI(人工知能)やロボット技術の社会実装レベルが上昇
- ・ 長年続いた低金利環境から脱却し、金利上昇が経済活動や資産運用に影響
- ・ 安全で安定した次世代蓄電池の技術革新や需要拡大により、次世代エネルギーへのシフトが本格化
- ・ スペースビジネスや、AIを支えるデータセンター関連の投資が拡大

#### 3. 生活と働き方

- ・ 人口減少に対応した、働き方改革が進展
- ・ AIやデジタルツールを使いこなす能力(スキル)の必要性の高まり
- ・ 高齢化社会において、ヘルスケア技術や介護関連サービスが不可欠な社会インフラ

### 【3つの原則】

#### 1. 挑戦を歓迎し、失敗を許す

- ・ 誰もがリスクを恐れず挑戦できる機会をつくる
- ・ たくさんの挑戦を生み出し、次の世代に向けたタネを育てる
- ・ 挑戦を皆で応援し、リスクや不安をカバーしあう

#### 2. 地域資源を活かして、新たな結合を生み出す

- ・ 青梅ならではの、多様な産業や地域資源の新しい組み合わせを創り出す
- ・ 過去(伝統)と未来(新技術)の結合
- ・ アナログ(ヒト)とデジタル(機械)の結合
- ・ リアル(現実)とバーチャル(仮想)の結合
- ・ 自然と都市の融合

#### 3. ナンバーワン、オンリーワンを目指す

- ・ スピード、独創性を大切にする
- ・ 愛着と誇りをもち、自慢できる、新しい青梅のアイデンティティを生み出す

# 10年後のおうめの姿（将来像）案

## 1. 良好な地域経済循環構造の実現 ～誰もが憧れるまちへ～

- 1-① 美しい山と渓谷を擁する豊かな自然と利便性の高い都市機能が共存する中で各産業がつながり、地域経済が好循環し、全国上位の所得水準となっています。
- 1-② 利便性の高い商業、競争力のある工業が、青梅の自然や伝統を活かした観光業や農林漁業とともに発展し、稼ぐ力を高めています。

## 2. 商業振興 ～地域や個店の魅力を活かした市内消費の拡大～

- 2-① 市内の個店は、それぞれの個性や魅力を大切にしながら、リアルとバーチャルの双方で利便性が高まり、多様な消費者ニーズに応えています。
- 2-② 江戸時代より青梅街道の宿場町として栄えた青梅駅周辺などの商店街は、昭和レトロ、梅の里の復興など、それぞれの特徴を活かして、市民や観光客がにぎわう場所になっています。
- 2-③ 都心直通の鉄道、首都圏全域にアクセス可能な高速道路などを介して、美しい山や渓谷などの豊かな自然を活かしたスポーツやレジャー、農林漁業や産品を介した体験、まちなみの散策や工場の見学などを目的とする交流人口が増えています。

## 3. 工業振興 ～青梅の稼ぐ力を強気に牽引～

- 3-① 青梅市内事業者の強みである、全国的にも多いDX認定事業者が牽引役となり、多くの製造業のあらゆるプロセスにデジタル技術やAIが導入され、効率化や最適化が実現しています。
- 3-② 機械や電子部品などの強みのある産業間のみならず、農林漁業、IT、物流などと製造業との連携、技術交流が進み、青梅発の新しい製品の開発・販売が進んでいます。
- 3-③ グローバルな販路拡大、サプライチェーンの再構築が進み、国内はもとより海外からも付加価値の高い仕事を受注し、「青梅のものづくり」がブランドとして確立しています。

## 4. 地域の人材・企業の活躍 ～挑戦や革新、多様性の尊重～

- 4-① こどもや若者たちは、自然と都会、歴史と先進性など、様々な特徴を持つ青梅市に、それぞれの感性で愛着・誇り・希望を持って、青梅に住み、働き、暮らし続けたいと考え、職住近接のまちとして、企業の採用活動の好調さに繋がっています。
- 4-② 多くの企業でデジタル技術が導入され、省力化・効率化、高付加価値化が進むとともに、新たなサプライチェーンも生まれています。
- 4-③ 都心へのアクセス性、産業の多様性、堅固な地盤などを背景に、新たな挑戦や社会実験の聖地として広く認知され、起業・創業も活発になっています。
- 4-④ 新たなチャレンジやイノベーションを図ろうとする人材や事業者に対し、市民、事業者、行政など、地域ぐるみで応援しています。
- 4-⑤ 市内の企業では、従業員それぞれのライフスタイルに応じた働きやすい環境の整備や、青梅への移住をサポートする「バディ事業者」として新たな人材の呼び込みが進むなど、若者から高齢者まで多様な人材がやりがいをもって活躍し、特徴ある技術やノウハウも引き継がれています。

## 5. 新しい時代に対応した産業基盤の構築 ～デジタル化、脱炭素化、産業用地～

- 5-① 青梅インターチェンジ周辺用地や跡地・空地等の有効利用により、周辺環境と調和した新しい産業用地が確保され、既存産業の事業拡大が進むとともに、知識集約型産業や装置型産業など新しい産業の立地も進んでいます。
- 5-② 自動運転、ドローン配送、AIによる交通制御等により、幹線道路やインターチェンジ周辺の混雑緩和や郊外部での物資輸送の円滑化が進んでいます。
- 5-③ IT産業が市内に集積し、市内のあらゆるデジタル技術やシステムの開発・運営を担うことで、青梅市の新しい基盤産業として市民の暮らしや経済活動を支えています。
- 5-④ 省エネルギー対策の推進や再生可能エネルギーの導入に加え、都市機能の集約・高度化や二酸化炭素排出量の少ない交通手段の利用促進、吸収源となる御岳山に代表される美しい山並みをはじめとするみどりの保全・活用が進み、CO2削減に加え市民や企業のエネルギーコストも減っています。
- 5-⑤ 地域全体のデジタル化と山里や川などを有する地域における豊かな自然と共生した地域づくり「スマートローカル」が実現しています。

## 10年後のおうめの姿（将来像）



将来像のイラスト追加予定

## 他地域の事例① スマートシティ

### 【次世代交通・物流】自動運転バス・ドローン（茨城県境町）

- 茨城県境町では、2020年11月、全国に先駆けて自動運転バスの定常運行を開始。医療施設や学校をつなぐルートで無料運行している。
- また「ドローンを活用したまちづくり」を進めており、2024年には独自の拠点施設をオープンさせ、多方面でドローン技術の社会実装を進めている。主な取り組みと施設は以下の通り。
  - 防犯・見守り：2025年3月より、闇バイトによる強盗や窃盗などの対策として、ドローンによる上空からの防犯監視・見守り体制の導入を開始している。
  - 物流・配送サービス：2023年に国内初の「レベル3.5（有人地帯の上空を補助者なしで目視外飛行）」での配送実証を行い、名産の干し芋や日用品などのオンデマンド配送、自動運転バスとドローンを組み合わせた効率的な物流システムの構築に取り組んでいる。
  - 公共インフラの点検：2025年3月より、下水道管内をドローンで調査する点検業務を実施している。
  - 主要施設と連携：ドローン開発大手である株式会社ACSLと包括連携協定を締結し、研究・教育拠点として境町ドローンラボ・ドローンフィールド、日本ドローントレーニングセンターを開設。



図. 茨城県境町の自動運転バス、自立飛行ドローン等による配送サービス

### 【ICT活用】スマートシティ会津若松（福島県会津若松市）

- 会津若松市は、ICTを活用して持続力と回復力のある力強い地域社会、市民が安心して快適に生活できるまち「スマートシティ会津若松」を目標に掲げている。
- 具体的な取組として、ICT関連企業の集積に向け、本社機能の一部移転などが実現できるように、ICTオフィスビル「スマートシティAiCT」を整備した。
- スマートシティAiCTの入居企業を中心に設立されたコンソーシアムが、観光、食・農業、防災、健康・医療関連のサービス、デジタル地域通貨の仕組みなど、データ連携基盤を活用した多彩な分野で取り組みを展開している。



図. スマートシティAiCTの外観

## 他地域の事例② DX化

### 【企業DX推進】新居浜市DX推進ラボ（愛媛県新居浜市）

- 新居浜市DX推進ラボは、企業のDX推進、デジタル人材育成、IT企業の振興・誘致の観点から、地域のデジタル化を推進する事業を総合的に実施し、ものづくり企業とIT企業等との共創による新たなイノベーションの創出に取り組んでいる。
- 地域企業のデジタル課題のレベルに応じた支援体制を構築し、DX導入に向けた伴走支援を実施している。
- 市内のとある製造業の会社では、製造指示書が紙ベースで作成されていて、進捗管理に時間と手間がかかっていた。これを踏まえて、県内のIT企業と連携してWEBシステムを導入したことにより、各工程の進捗状況が瞬時に把握可能となった。

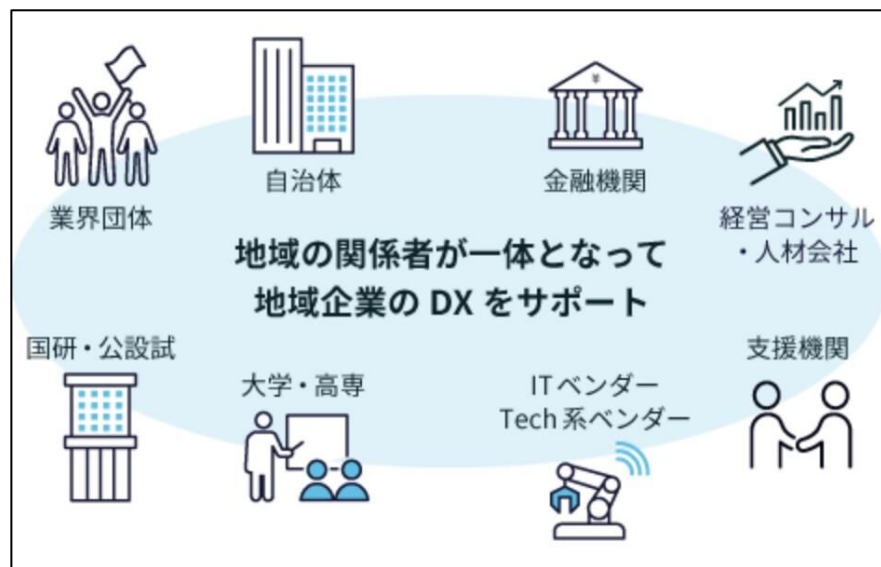


図. 新居浜市DX推進ラボの概要

### 【DX活用】デジタル受発注システム（東京都大田区）

- 東京都大田区では、区内企業の強みである「仲間まわし」及び試作・研究開発力を生かすことのできるデジタル受発注プラットフォームを構築し、その拡大を推進している。
- 本事業により、中小製造業のデジタル化を促進し、各社の多様な強みをつなぐことで相乗的な価値を創出して、提案型の利益率の高い案件の受注を拡大し、中小企業の稼ぐ力を強化していくとしている。

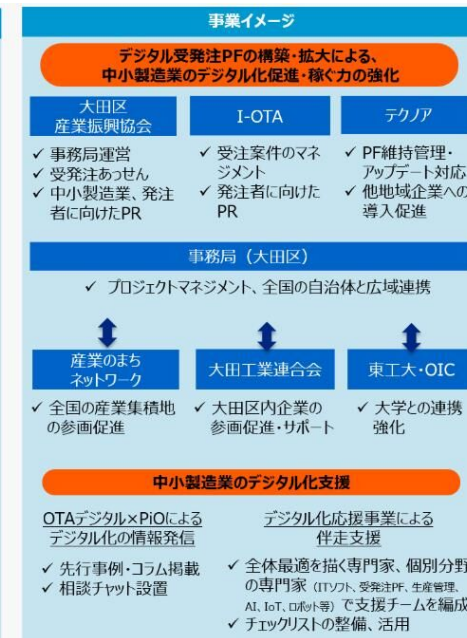
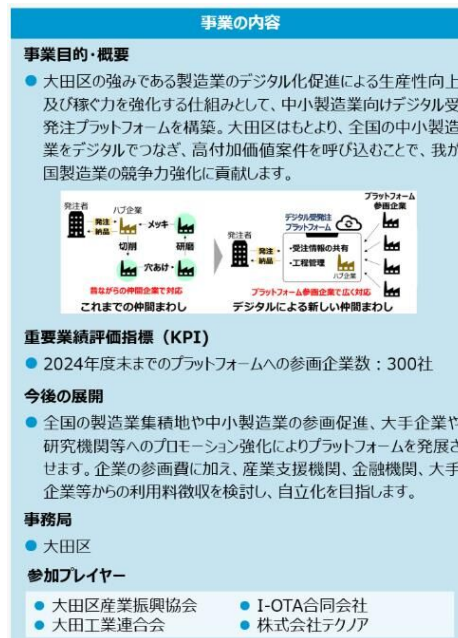
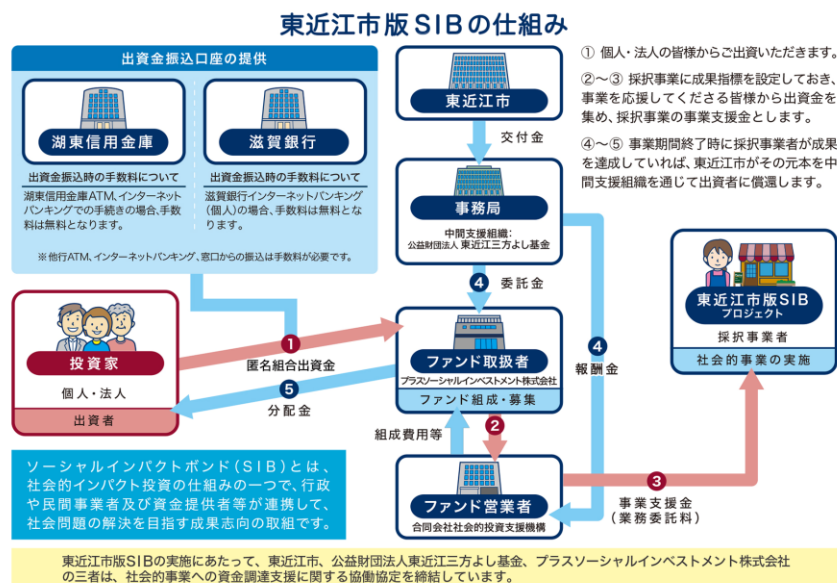


図. 取組の概要

# 他地域の事例③ 新規事業創出支援

## 【資金調達支援】コミュニティビジネススタートアップ支援事業 (滋賀県東近江市)

- 東近江市では、事業に必要な資金調達の仕組みである東近江市版 SIB (ソーシャルインパクトボンド) を活用し、中間支援組織と連携しながら市民の出資による応援のもと、地域内で実施されるコミュニティビジネスの立ち上げを支援する事業を行っている。



### 令和7年度採択事業

団体名	事業名	事業の内容
Orangeの会	多様な体験とeスポーツで育む地域共育プロジェクト	子ども会の減少を受け、菓子作りやeスポーツなどの多様な体験活動を親子に提供。障がいの有無を問わないインクルーシブな環境を整え、学校外の交流や居場所づくりを通じて子どもの成長と地域の共育を推進する。
合同会社集楽	あいとう地域における”ありがとうの循環”	住民や企業から協賛を募り、子どもたちへ地域限定チケットを配布。利用後の感謝メッセージを通じた交流や、学生カフェの運営、高齢者支援を行い、多世代が繋がる居場所づくりと「感謝の循環」による活性化を図る。

図. 東近江市版SIBを活用したコミュニティビジネススタートアップ支援の概要

## 【知財活用支援】知的財産マッチング事業 (神奈川県川崎市)

- 川崎市では、大企業等が保有する特許等の知的財産を中小企業に紹介し、新製品開発・技術の高度化・高付加価値化を支援する知的財産マッチング事業を行っている。
- 公益財団法人川崎市産業振興財団は、大企業や研究機関等の開放特許等を活用して新製品開発等の新たなビジネス展開を目指す中小企業を対象に、中小企業と大企業の出会いづくりから、契約交渉、製品開発・販路開拓まで、知的財産マッチングの専門家である知的財産コーディネータとともに一貫したサポートを行い、「自社製品を持ちたい」「新規事業に取り組みたい」といった中小企業のニーズに対応している。

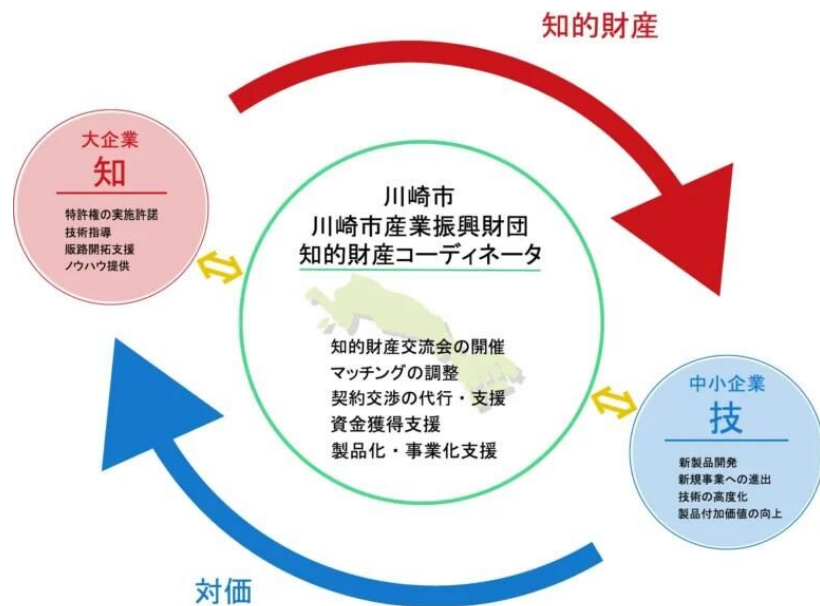


図. 知的財産マッチング事業の概要



## 他地域の事例⑤ 商店街活性化

### 【商店街活性化】円頓寺オンライン商店街（愛知県名古屋市）

- 円頓寺オンライン商店街は、実際の商店街の街並みをWEB上で再現したものであり、商店街を歩く感覚に寄せた設計となっている。
- 商店のイラストをクリックすると、店舗情報とともに商品情報も表示され、オンライン決済で購入が可能となっている。
- 購入商品については、実店舗での受け取りも可能であり、リアルなお店に足を運んでもらうための仕掛けが用意されている。
- サイトオープン後には、商店街の歩行者通行量が 3%増加している。



図. 円頓寺オンライン商店街のWEBイメージ

### 【交流拠点整備】「cocotomo」（群馬県桐生市）

- 桐生中央商店街では、「商店街の中に活動拠点となるコミュニティスペースを作れば、そこに人が集まり、街も元気になる」という考えのもと、空き店舗を活用して、コワーキング&コミュニティスペース「cocotomo」が開設された。
- Cocotomoでは、小学生向けの体験プログラムやフリーマーケット等が開催されており、子育て世代を中心とした交流の場となっている。
- また、会議スペースの貸出しと併せて、司法書士・弁護士・会計士・税理士等で構成した企業支援チームを配置して、起業を目指している人たちのサポートも実施している。



図. コワーキング&コミュニティスペース「cocotomo」でのイベント時の様子